

## 公共交通に係る地区座談会の実施について（結果）

### 1 開催の趣旨

市街地への移動に課題がある山間地域住民との意見交換を行うことで、地域公共交通や移動支援に対する住民ニーズを把握し、併せて自らの地域に合った公共交通のあり方や地域課題に対して主体的に取り組むきっかけの場とする。

また、令和5年策定予定の地域公共交通計画、福祉部局の高齢者福祉施策の在り方審議会や生活支援体制整備事業の検討時における基礎資料としてそれぞれの施策に活用する。

### 2 概要

- (1) 名称 公共交通に係る地区座談会
- (2) 対象 市内52区のうち、実施を希望する地区
  - ・ 令和4年11月7日開催区長会全体会で通知及び募集
- (3) 時期 令和4年12月～令和5年2月（地区と協議の上決定する）
- (4) 内容
  - ・ 地区の現状（人口や高齢化率の推移、現状の交通手段等）
  - ・ 市事業や取組の報告
  - ・ 地区に合った交通システムの検討など
- (5) 連携課 長寿介護課、福祉こども相談センター

### 3 実施結果の一覧

延べ8地区（7箇所）79人

日時	地区	会場	参加人数等
令和4年12月13日(火) 10:20～11:40	みどり区・ 小松ヶ原区	エメラルドタウン 管理組合	7人 (区長、管理組合員ほか)
令和4年12月18日(日) 19:20～19:40	田中山区	田中山公民館	7人 (区長、区役員)
令和4年12月21日(水) 19:00～20:00	浮橋区	浮橋公民館	12人 (区役員、子供会、女性の会ほか)
令和5年1月21日(日) 18:00～18:50	長者原区	長者原公民館	8人 (区長、区役員、シニアクラブほか)
令和5年1月28日(土) 19:00～19:20	田原野区	いこいの家	9人 (区長、区役員、区建設委員ほか)
令和5年2月2日(木) 10:00～11:20	千代田区	千代田公民館	17人 (区役員、一般区民)
令和5年2月18日(土) 19:00～19:20	奈古谷区	生涯学習センター	19人 (区長、区役員、組長)

## 公共交通に係る地区座談会について

### 1 実施結果まとめ（8地区 延べ79人参加）

	実施地区	日時	参加人数	意見交換の内容			座談会の継続希望
				現状の声	地域課題の捉え方	ニーズ（行政への要望）	
1	みどり区・小松ヶ原区	R4.12/13(火) 10:20~11:40	7人 (区長、管理組合員ほか)	「管理組合のタウンバスは本数が足りない」 「管理組合のバスが維持できるか分からない」 「市が交付するタクシー券が足りない」 「29/42の小松ヶ原区民が交通手段が必要だと回答（アンケート結果）。」	・いくつかの地域と連携して取り組むべき ・空いている自家用車の活用を検討しては ・自助的な要素が必要。行政におんぶにだっこではなく、動ける人が動いていくべき	・管理組合バスへの補助金等の支援 ・(いくつかの地域があるため)とりまとめ役 ・山間地への商店の誘致（移動スーパーなど） ・温泉循環バスの復活	希望あり
2	田中山区	R4.12/18(日) 19:20~19:40	7人 (区長、区役員)	「まだ自力で運転できている人が多い」 「免許返納したという人はあまり聞かない」 「運転は山だけで市街地には降りない」 「困っているという声はあまり聞かない」	・今はまだ動けるが、5年後には分からない（課題意識は薄い印象。後期高齢化率の割合が減少しているため、ピークは乗り越えている）	・1、2回/週の買物や通院支援手段の導入	希望あり
3	浮橋区	R4.12/21(水) 19:00~20:00	12人 (区役員、子供会、女性の会ほか)	「足がなくて困っているという声は聞かない」 「近所の人が週に1回連れてくこともある」 「市街地へタクシーを使って降りる人もいる」 「タクシー券の金額が平等かは分からない」	・まだ現役が多いが、5年後はどうか分からない ・子どもの通学については、スクールバスの方が子ども達にとっては使いやすくなるだろう	・順天堂バスの浮橋地区への経由 ・タクシー利用の補助金等の支援	希望あり
4	長者原区	R5.1/21(土) 18:00~18:50	8人 (区長、区役員、シニアクラブほか)	「運転できない人は家族が対応している」 「自家用車があればバスは乗らない」 「小中学生の通学支援はあるが高校生はない」 「市が交付するタクシー券が足りない」	・バスという形態ではなく、2千万円という経費の使い方を考えて抜本的な見直しを検討しては ・子どもの通学支援は継続すべき	・タクシー券の見直し（増額など） ・高校生へのバス通学支援	希望あり
5	田原野区	R5.1/28(土) 19:00~19:20	9人 (区長、区役員、区建設委員ほか)	「区民にも公共交通の現状を知ってもらいたい」 「バスの赤字は分かるが、子どもの通学を考えれば廃止では困る」	・区として、交通をどうしていくか話し合いを継続していきたい ・4地区（長者原、田原野、浮橋、下畑）の共通課題として話し合いを進めていきたい	(特になし)	希望あり
6	千代田区	R5.2/2(木) 10:00~11:20	17人 (区役員、一般区民)	「バスの乗り方降り方が分からない人もいる」 「バスの乗る習慣がない人がほとんどでは」 「バス停が遠い」 「帰りに最寄りのバス停には停まらない」	・まずは利用してもらうということを考えるべき ・バス継続のためには区民も負担する必要がある ・バスの利用方法を工夫すべき（片道利用⇒ウォーキングで帰宅など） ・高齢者の交通事故等を自分ごととして捉えるべき	・高齢者向けバスの乗り方教室の実施 ・タクシー券の見直し（年齢制限など） ・バス利用の補助金（乗り放題制度など） ・高校生へのバス通学支援	希望あり
7	奈古谷区	R5.2/18(土) 19:30~19:50	19人 (区長、区役員、組長)	「車がなくて困っているという声は聞く」 「家族や近所が助けているのではないか」	・バスの代替例を知っておきたい（予約型乗合タクシー制度の詳細を説明） ・今後も継続した話し合いを進めていきたい	(特になし)	希望あり

### 2 座談会後の対応/結論

- ① 令和5年度策定の「伊豆の国市地域公共交通計画」へ市民意向や地域ニーズとして反映
- ② 地域が主体的に取り組むため、継続的な座談会の実施（令和5年度 市長座談会「市長と語ろう」の議題の1つとして実施中）

⇒ どの地区においても「何かしらの交通手段が必要」だと感じており、現状では「デマンド型の乗合交通」が最も導入しやすい環境であること。

導入するためには、地区との協議を重ねて合意形成を図るとともに、行政側としても必要かつ十分な準備を整えること（データ、好事例、予算、事業者との調整等）。